

ごみがごみを呼ぶ

不法投棄

リポーター 高清水 友子さん

(相染町)

道路沿いにごみが捨てられたり、個人の土地にボタ山のようにごみが積まれたりして、近所のかたたちが困っている。そんな様子がテレビなどで報じられているのをしばしば目にします。

「ところで、大館市の状況はどうなのだろう。こう思った私は、これを自分の目で確かめたいと考え、不法投棄問題を担当している市役所の生活課などの協力を得ながら、リポートをまとめてみることにしました。

市では、平成四年四月から、不法投棄監視員二十人を委嘱しています。監視員は市域を分担して巡回しており、不法投棄者に対して指導・助言を行っています。

監視員制度が発足してから五年もたつというのに、不法投棄は年々増えているといえます。一度不法投棄が始まると、そこが格好の捨て場所になってしまい、いつの間にかごみの山が出現するという悪循環が定着しているのだそうです。今や「ごみがごみを呼ぶ」とまでいわれ、モラルの低下が憂

慮されています。

以下は不法投棄現場の実況見聞です。

① 松木集落近辺にて

下内川の松木橋から百五十メートルほど上流の堤防沿い。すぐ川向かいに民家が見えます。「ごみの投棄を厳禁する」と立て看板があるところに、たくさんの粗大ゴミ。数年前から捨てられたままになつている様子でした。新しくは捨てられていないようです。藪には自動車捨てられていました。地元のかたが通りかかり、次のように話してくれました。

「昼よりも夜中に捨てて行く場合が多いんです。見かけたときは声をかけて帰ってもらっているんですが、古い投棄物をこのまま放置していたのでは立て看板があっても捨てに来る人が後を絶ちません。ですから、早急に撤去していただきたいのです」

この不法投棄物は、市が今月中旬にも撤去する予定。立て看板もさらに大型のものにするのだといえます。

② 橋桁地区の国道沿線にて

国道7号から脇の小道にそれ、踏切を渡ったところに大きな警告看板。「不法投棄をした者は、法により一年以下の懲役または百万円以下の罰金に処せられます」と記されてありました。

道路沿いに少し進むと、警告看板からほど近いところに有刺鉄線で囲まれた一帯がありました。これは今年六月に市が巨額をかけて投棄物を撤去した跡です。撤去前の写真も見せていただいたのですが「良くここまできれいにできたものだ」と感心させられるほどの変わりぶりでした。さらに奥へ入り、大型トラックの廃車両が数台転がっていたのにびっくり。一瞬、言葉もありませんでした。

そこから右手の道に入ると、無数の自動車が積み、沿道両側百メートル以上にわたって粗大ゴミの壁が形成されています。廃車両・ボイラーともに百台ぐらい。自転車・バイクが数十台。建設・農業機械、ガステーブル、商店で見られるアイスクリーム用冷凍庫

や牛乳用冷蔵庫、アルミサッシ、鉄骨等建設資材、ストーブなどがその主なものでした。金属の旋盤くずも多く見られます。

また、沿道の私有地には敷地いっぱいに積まれた粗大ごみの山が筆舌に尽くしがたいほどの惨状に圧倒されました。後で生活課から聞いた話では、ここは以前、廃品回収業者が使っていた土地であるとのこと。しかし、現在ではこれらの粗大ごみの山を管理する人がおらず、「ごみがごみを呼んでいる」のだといえます。市としても対応に苦慮しているようでした。

市では「安心して住める町、きれいな街づくりに努力していただきたい市民のことを考えると胸が痛む」とコメントします。環境汚染の防止や環境美化の観点からも非常に残念な状態にあるようです。「今後も監視の強化に努めたり、不法投棄禁止の立て看板を設置したり、広報『おおだて』で不法投棄の防止を呼び掛けたりしていきたい」という市。しかし、根本的な解決には投棄者のモラルが不可欠であり、とりあえず投棄物の撤去回収に力を入れるほかはない現状にいらだちを募らせています。

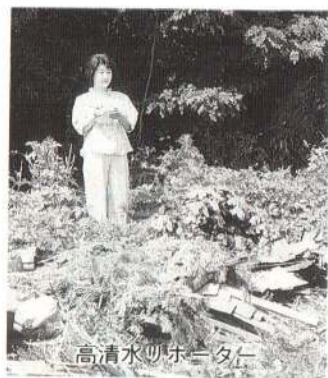
を發表しました。大館市でも今後は有料回収を検討していきたい、としています。

市の不法投棄監視員からの報告に基づいて生活課がまとめた調査結果によると、現在、市内で「相当量」の廃棄物が不法投棄されている場所は、約二十カ所にも及ぶのだそうです。

近年の不法投棄物は年々大型化し、その種類も多様化する傾向にあります。また、「投棄」なのか「置いてある」のか判断がつかないケースもあり、これも悩みの種の一つなのどうか。今後、ますます処分にかかる費用が増えることが心配されます。特に、廃車両をユーザーが正しい手続きで処分せず、路上や空き地に放置するケースが全国的に増えているのだそうです。

人目に付かない真夜中、山野や河川敷へ廃棄物を持ち込み、投棄する人。果ては山の上から谷底へ投げ捨てるといったあきれたケースも。撤去が不可能な場所も少なくないといえます。

不法投棄問題については、市役所でもプロジェクトを組んで、より本格的な体制を整えることを期待します。しかし、最終的には一人ひとりのモラルの問題です。私たち市民も日ごろから気持ちを引き締め、不法投棄をしない・させない社会を作り上げなければならぬと感じました。



高清水リポーター